

安全推進室だより Vol2

自社の弱点（リスク）を見出すために  
～まずは事故の傾向を掴むこと～

事故を未然に防ぐことは重要なことですが、まずは、自社の弱点となる事故の傾向を掴み、同じ事故を二度と起こさないために、きっちりと対策を立てて事故の再発防止から取り組むことが必要です。

例えば、1件の事故毎に、「いつ」、「どこで」、「何が起こったか」、だけでもいいので、調査のために事故情報を収集します。

ある程度集まると、どこでどのような事故が起きているのか、曜日帯・時間帯の傾向などが見えてきます。

また、必要に応じ「何（誰）に対し」とか「なぜ起きたか」等を加えることで、より細かく分析することもできますので、自社に合った問いかけを考えるのも良いでしょう。

お気づきかもしれませんが、調査内容に「だれか」を入れていないのは、事故の原因を分析するうえで、「運転手のせいだ」「乗組員が悪い」で終わってしまう（解決してしまう）のを避けるためです。

もちろん、事故を起こす人が決まっていれば、毎回同じ事故を繰り返しているのであれば、その方に対する再教育、再訓練を施すことは必要です。

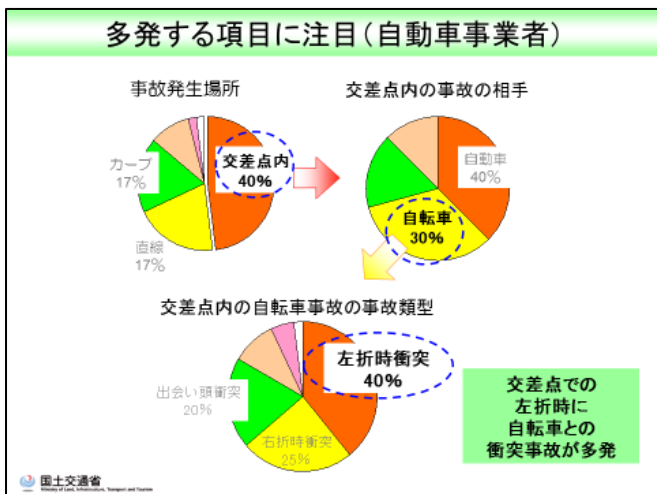
リスク管理の必要性:ポイント

- 事故の再発防止
- 事故の予防
- 支出の減少
- 企業の生き残り

※効果が現れるのには時間がかかる

■ 正常運行（運航）に向けた速やかな対策と、根本的原因に立ち返った再発防止対策の両輪が必要

国土交通省



事故の傾向が分かってきたら、次に、対策を立てるべき対象の絞り込みを行います。複数の事故が該当するならば、事故の頻度、影響の大きさ等により判別します。

自動車事業者における例として、左図のとおり「交差点での自転車接触事故」が対象とされています。

この場合の対策としては、例えば、ハード対策であれば車両へのミラーの設置などの視界確保、速度調整等、ソフト的には、社員への意識づけ、対処法の意見収集なども行うことが出来ると思います。

こういった調査結果を踏まえ、事故の再発防止のために何を行うのかを皆で議論し、実行に移すとともに、結果が表れない場合には、別の取組を思案するなど、取組を継続させることが必要となってきます。